



たいしも通信

前回、前々回で、中国の「何ちゃら80周年」式典の背景とその際披露された兵器について触れましたが、今回も中国に着目し、防衛関係ニュース第13弾として中国の最新空母、福建についてお送りします。

◆空母福建とは

福建は中国の航空母艦で、2022年6月に進水し、2024年5月に初の試験航海を実施しました。その名の由来は中国の省の一つで、台湾の対岸という香ばしい位置にあります。中国の空母としては1番艦の遼寧(元ロシア空母)、以後国産となる2番艦の山東に次いで3番艦となります。中国も1・2番艦はスキージャンプ方式でしたが、福建はこれらと異なり、大きく平らな甲板からカタパルトで航空機を射出する方式、しかも米国も手を焼く電磁方式を採用したのです。戦後、ジェット化して大型になった航空機を短い甲板から無理やり離陸させるため、蒸気の力で航空機を射出するカタパルトを使用しますが、構造が複雑で大型化することや、エネルギー爆食い等の理由から、とどのつまり米国とその技術供与を受けたフランスしか保有できませんでした。小型空母でハリヤー等の垂直離着陸機を運用する手もありますが、離陸のためには燃料や弾薬を減らさざるを得ず、極端に能力が低下します。このため、スキージャンプ甲板を用いて離陸を少しでも手助けしようとする方式が一般的となっていました。

◆世界の空母

空母は航空機を海上で運用する「動く航空基地」であり、1隻で中規模国家の空軍に匹敵する戦力となりますが、価格、運用する航空兵力や技術が尋常ではなく、正規空母を持てる国は限定されます。次に現在の主な空母保有国を列記します。

- ① 米国…20隻(正規原子力空母11、強襲揚陸艦(軽空母扱い)9)
 - ② 中国…2+1隻(正規空母/福建は試験運用中)
 - ③ インド…2隻(正規空母)
 - ④ 英国…2隻(正規空母)
 - ⑤ フランス…1隻(正規原子力空母)
 - ⑥ 日本…2隻(軽空母扱い)
 - ⑦ イタリア…2隻(軽空母)
- 以下スペイン、オーストラリア、エジプト、トルコ、タイと続きますが、いずれもヘリか無人機のみ、ロシアに至っては唯一の空母は修理中で実質0隻となっています。

◆福建の実力と意義

空母の性能は艦本体だけでなく搭載航空機とその運用効率で決定され、これらを総合的に判断すると福建の能力は米空母の約6割程度と言われており、空母を戦闘用というより外交的抑止装置として捉え、国威を誇示し周辺国を心理的に従わせるための象徴として扱っているようです。そしてこの影響を最も受けるのが日本なのです。今後日本が南西防衛の整備を怠れば、中国は第一列島線を自国の内海と見なし日本の外交的選択肢を奪うことが考えられます。いみじくも過去某政権時の防衛大臣の発言にもあったとおり、日本が中国を刺激しないようにと自己検閲を始めた瞬間、今後は中国が戦わずして勝つという戦略が成功したも同然となります。中国が目指す最終形態は、中国に逆らわない日本、米国と距離を置く日本、台湾問題で沈黙する日本ではないでしょうか。

▼編集後記▲▲

現政権下では、対外政策としてこれまでであったような不可思議な付度が解消されつつあるのでは、と期待しています。例によって、内容に関する責任は全て支部長にあり、特に規則等に定めてあるもの以外は私の個人的見解が色濃く反映されていますので、ご意見等ございましたら遠慮なくお知らせ下さい。